



ゆいま～る北海道通信

1号 2018年2月



発行者
ゆいま～る北海道
実行委員会（森下）

2016年12月末の「全教ゆいま～る」から1年と数か月がたちました。あの日、沖縄で、30名の青年が（道教組合む）戦争の悲惨さから、戦後の沖縄の苦しみから、そして米軍基地に反対する今の沖縄の戦いから、「平和・民主主義・憲法・連帯」を学びました。その後、若者たちの沖縄学習への熱は冷めることなく、ゆいま～る実行委員会は次の沖縄平和学習に向けての準備と研修を重ねてきました。

そしてここに、北海道独自の沖縄平和学習「ゆいま～る北海道」を開催します。ゆいま～るから2年後の沖縄がどのようになったか、一緒に見に行きませんか？沖縄で戦争の悲惨さを肌で感じることで、平和を語れる教員になりませんか？沖縄に訪れたことない方でも構いません。必要なのは、自分の目で見て学ぼうとする熱意です。

下記のコラムも合わせてご一読いただき、参加を検討していただければと思います。参加申し込みなどの要綱のご案内は夏休み明け以降になります。これから定期的に通信を発行することで、沖縄の戦い、歴史と未来を伝えていければと思います。ぜひ、ゆいま～る北海道への参加を検討してみてください。



と き：2018年12月26日（水）午後～28日（金）正午まで

*ただし26日の午前中に、オブショナルツアーを企画します。

参加資格：全教職員（ただし、35歳以上の組合員は、1名以上の青年を誘うことが望ましい）

コース：（現段階でのイメージです、今後変更の可能性もあります）

<p>1日目（26日）</p> <p>「わ°ヨカルター」</p> <p>・ひめゆり平和資料館</p>	<p>2日目（27日）</p> <p>米軍基地視察</p> <p>・辺野古、嘉手納</p> <p>・他教組との交流</p>	<p>3日目（28日）</p> <p>那覇市内見学</p> <p>・不屈館、首里城</p> <p>・体験学習</p>
--	---	--

●問い合わせ先

ゆいま～る実行委員会事務局長 森下 瑛仁 morishita_union@yahoo.co.jp

*費用に関しては、現在調整中です。



コラム「ゆいま～るから1年後の沖縄」

昨年、の年末から今年にかけて、保育園や小学校、そして沖縄の人が生活する様々な場所に、CH53Eを含む米軍のヘリコプターが墜落しました。今までの事故件数をはるかに上回るその頻度から、もつと大きな事故が起るような、そんな不吉さを予感させる年明けとなりました。▼「ゆいま～る」から1年が経った大浦湾は、その姿を大きく変えていました。大きなクレーンが何基も設置された。建設現場の周りを囲むブイが、この工事の進行をアピールするかのよう。拡張されていきました。キャンプ・シユワブのゲート前に車を向かう途中、埋め立てるための岩石を運んだトラックを、何十台とみました。ゲート前に座り込みをする元教職員の方から聞いたところ、1日に3回の搬入、多い日で100台以上のトラックがゲートの中に入っていくそうです。▼私たち視察団はその変わりように圧倒され、無力感に打ちひしがれていました。そんな私たちに、辺野古テントでは次のように説明してくれました。「基地建設の作業は進んでいるように見えるが、その工程は計画通りではありません。埋め立てできるところから着手しているだけなんです。理由は、県知事・名護市長の持つ権限があるからです。しかも、埋め立て予定区域に注ぎ込む美謝川の流路変更については、防衛局も手が出せません」。▼私たちが辺野古を去るそのとき、あのゲート前で話したおじいちゃん、おばあちゃん、体を張った座り込みを始めていたことを、後になってニュースで知り、自分自身の目でその事実を見ることが必要です。それに加えて、正しい知識・根拠を学び、それを広めていく必要がある」と感じた瞬間でした。